

平成19年度 あいち海上の森保全活用事業の取組状況

「あいち海上の森条例」（平成18年4月1日施行）に基づき、海上の森を愛知万博の理念や成果を継承する「愛知万博記念の森」と位置付け、将来にわたり保全活用するとともに、県民参加のもとに森林や里山に関する学習と交流の拠点として、里山保全活動、森林環境教育を始め、情報発信や人材育成などの幅広い取組みを展開しました。

主な取組

愛知万博記念の森としての保全のための事業

里山保全事業、森林育成事業、森林維持管理事業、自然環境調査事業

森林や里山に関する学習と交流のための事業

参加体験事業、自然環境・里山保全等の普及啓発事業、指導者養成・情報発信事業
シンポジウムの開催、ユニバーサルプログラムの開発

愛知万博継承事業

愛知万博の理念・成果を発展させるため、人と自然の共生国際フォーラムの開催、あいち海上の森大学の開校、里山自然歩道の整備

取組の状況

里山保全や森林の育成、森林の維持管理などに取組みました。

事業項目	取組状況
里山保全事業	耕地管理 県有農地（体験学習プログラム「里の教室」で使用）の適切な維持管理のため、委託業務を実施 0.62 ha
	水路浚渫等整備 県有農地への用水確保のため、水路へ流入した土砂の浚渫などを実施
	竹林整備 県有地内の竹林を適切に管理するため、竹林の伐採・整備を実施 1.00 ha
森林育成事業	人工林整備 人工林の健全な育成のため、過密林分の間伐等を実施 2.81 ha
	広葉樹林整備 生物多様性の確保、里山景観の維持等を図るため、広葉樹林の整備を実施 0.54 ha
	針広混交林整備 人工林を自然性の高い混交林へ誘導するため、伐採を実施 3.06 ha
森林の維持管理事業	林道・作業道の補修等管理 森林の適切な管理や活動のために利用する林道及び作業道の維持管理工事を実施
	歩道等の整備・補修 森林の適切な管理や活動のために利用する歩道の維持管理工事を実施
境界整備費	境界管理のため、境界柵設置工事等を実施
遊歩施設整備	遊歩施設の適正な管理を図るため、遊歩道補修等の工事を実施 手摺の整備・樹名板の設置等
事業用地維持費	事業用地の適正な管理を図るため、歩道整備、危険木伐採、草刈、センター内の除草等を実施

体験学習の実施、自然環境・里山保全等の普及啓発事業、人材の育成、連携促進などに取り組みました。

事業項目		取組状況			
		行事名等	参加人数	延べ人員	
参加体験事業	体験学習プログラム	森の教室（親子編） 2回	118	118	
		森の教室（入門編） 4回1セット	39	98	
		森の教室（技能向上セミナー-入門編修了者） 3回	21	28	
		森の教室（技能向上セミナー-海上の森の会） 3回	15	21	
		里の教室 8回1セット	75	205	
		里山のものづくり 4回	98	111	
	調査学習会	海上の森の夏キノコ		30	30
		海上の森の水辺の植物		18	18
		海上の森の昆虫		41	41
		海上の森の秋キノコ		85	85
		海上の森の動物		13	13
		海上の森の野鳥		33	33
		海上の森の水生昆虫		31	31
	海上の森ツアー	海上の森ツアー 4回	210	210	
里山遊歩施設利用プログラム	遊歩施設セルフガイドブックを作成				
	森の楽校（遊歩施設） 4回	198	198		
窯の歴史館学習会	古窯から「せともの」を学ぶ 6回	68	68		
指導者養成	ムーアカデミーセミナー	森林を主体とする里山環境を活用した環境教育に必要な指導者育成をするための講習会を開催 8回1セット	23	134	
	森林ボランティア研修	森林ボランティアを始めるため 1回	23	23	
自然環境・里山保全等の普及啓発事業	センターの展示運営	春：冬芽から若葉へ 夏：葉っぱの大解剖、 秋：紅葉&ドングリ 冬：シデコブシ			
	企業との連携パンフレットの作成・配布	企業連携説明会の開催 1回 連携のための協議 3件			
	全国の里山保全活動や施設との連携	あいち自然環境団体・施設連絡協議会の設立に向けた準備会・設立総会（12月22日）			
	学習プログラムの作成・提供	学習教材「秋の自然観察ガイドブック」「海上のキノコ」を作成			



体験学習プログラム（里の教室）



調査学習会（海上の森の昆虫）



ムーアカデミーセミナー

海上の森の自然環境を保全するための基礎的な調査と情報整理・発信に取り組みました。

事業項目		取組状況
自然環境調査事業	湿地の植生・環境調査	多様な動植物の生活環境である海上の森の適正な保全を図るため、湿地の植生・環境調査を実施
	希少動物の生息状況調査	ムササビが生育する里山環境の維持保全の基礎とするため、ムササビの生息状況を調査調査に必要な巣箱づくり教室を開催
自然環境情報等の収集整理・情報発信		<ul style="list-style-type: none"> ・海上の森の自然環境情報の収集・展示 ・データベースの更新 書籍の購入 ・「ムーアカデミー通信」の発行 4回 ・海上の森シンポジウムの開催 「海上の自然とシデコブシ」12月16日

愛知万博の理念を継承発展させるための事業に取り組みました。

事業項目	取組状況			
	内容	日時	場所	参加数
人と自然の共生国際フォーラム	テーマ「自然の叡智を再考する」 ～里山から学ぶ持続可能な社会づくり～ ・基調講演 ・課題提起・意見交換 ・交流会 ・パネルディスカッション ・現地見学会	平成19年11月24～25日 人と自然の共生国際フォーラム実行委員会を組織して実施 委員会2回開催 委員長 稲垣副知事	愛知県立大学講堂 海上の森・E100パーク 講演者 アルフォンス・カンブー 加藤尚武 鬼頭秀一 川井秀一 木村光伸 岩槻邦男 佐藤洋一郎 宮浦富保	約500人
あいち海上の森大学	森林再生コース 国際交流コース 市民参加コース 大学運営委員会で内容検討 2回開催	平成19年9月～平成20年2月 9/24 開校式 2/24 閉校式	あいち海上の森センター 研修室・海上の森 学長 マリ クリスティーナ氏 副学長 稲垣副知事	27/35 2/4 7/9 計 36/48
里山自然歩道整備	事業内容 案内看板 大3基（八草駅・山口駅・南門） 案内看板 小6基（八草駅からの案内4 山口駅からの案内2） ベンチ 1基 南門整備（ゲート・門柱・車止め・フェンス）			



人と自然の共生国際フォーラム



あいち海上の森大学(開校記念講演)

センターの適正な運営管理を図るとともに、センターの取組全般にわたる意見を聞く「海上の森運営協議会」を開催しました。

事業項目	取組状況
センターの管理・運営	施設修繕、清掃・警備、施設管理・点検、機器リース、廃棄物処理、塗装、企画調整、樹木管理など 施設利用者数（平成19年度） あいち海上の森センター 24,028名（通算 41,376名） 有料施設利用件数 工作室10件 研修室12件 スタンプラリーの実施（10月20日から 参加者534人） 万博エコマネーセンター開所（7月10日） センター入館者3万人目プレゼント実施（10月13日）
海上の森運営協議会	2回（8月2日・3月18日）開催 平成18年度の取組、平成19年度事業計画 平成19年度の取組、平成20年度事業計画 森林整備計画等



センター入館3万人目とその後の10組

障害者や高齢者とともに海上の森を体感できるユニバーサルプログラムを、開発会議を開催して作成しました。

事業項目	取組状況
海上の森・体感ユニバーサルプログラム開発会議	プログラムや障害者に関する有識者、障害者団体の代表、NPO団体等からなる開発会議 4回開催
海上の森・体感ユニバーサルプログラムマニュアル集の作成	海上の森で行う作業型・体感型のプログラム及びモデルコースの紹介や疑似体験プログラムなどを整理 これによりプログラムの実施、普及、改良を図る。



ユニバーサルプログラム開発会議

海外調査研究事業で、これからの森林環境教育や協働の取組に活かすため、ドイツ・イギリスの先進事例について調査しました。

ドイツにおける幼児期森林環境教育「森の幼稚園」の取組

イギリスにおけるグラウンドワークによる環境改善活動等の取組

【調査期間】 平成19年9月9日(日)～9月16日(日) 8日間

【調査場所及び状況】

ドイツ フライブルク市 リーゼルフェルト団地の「森の幼稚園」

園舎を持たずに森の中で保育活動を行う「森の幼稚園」の取組を調査しました。今回視察した2つの森の幼稚園はいずれもその自然保護区域内の森林を拠点として活動しており、3歳～8歳までの異年齢の子どもたち20数人を3人程度の保育士で受け入れています。いずれの幼稚園も市から助成金を得ている公認の幼稚園であり、森林所有者である市が森林整備を行うなど行政支援のもとで経営されています。活動内容としては、子どもの気づきや意向を尊重して自由に森を体感させることを主な目的としているため、特に決められたプログラムはありませんが、保育士は季節にあったテーマを子どもに提示するなど補助的な役割に徹しています。



朝のあいさつの様子

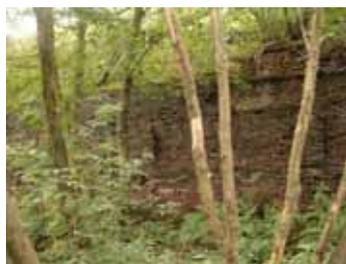


工作も森の中で行う(手形づくりの様子)

イギリス オールダム市、ロッチデール市 グラウンドワークによる環境改善活動実践地 等

イギリスを発祥とする「市民」「行政」「企業」の3者がパートナーシップをとりながら地域の環境改善を行う「グラウンドワーク(GW)」の取組を調査しました。今回はGW活動の中心的な役割を担う「トラスト」と呼ばれる専門機関で、イギリス国内で最も長い歴史と実績を持つGWオールダム&ロッチデールの活動状況を中心に視察を行いました。イギリスではGWなどのボランティア団体の活動が高く評価されており、トラストが実践する地域とのコミュニケーション能力や高度な経営センスが重宝されています。GWの取組は、地域の環境改善活動だけに留まらず、就業促進や人材育成など多岐に渡る活動へと発展しています。

< GWの活動事例 >



炭鉱施設を残して整備された公園
(オールダム市)



GWによって整備された公園のデッキ
(オールダム市)



列車の線路沿いの緑地をGWで整備
(ロッチデール市)

イギリス バッキンガムシャー市 アイヴァー自然学習センター(グラウンドワークテムズバレー)

GWにより管理・運営されている環境学習施設を調査しました。この施設では幼児を含めた子ども向けの環境教育に特化した取組を行うとともに、自閉症などの精神障害を持つ子供の受け入れを積極的に行っており、社会福祉と環境教育という地域のニーズにうまく対応した教育プログラムを提供しています。



ビジターセンターの外観